

# 齋藤一（文政12年・1844～大正4年・1915）

齋藤一は、新選組副長助勤、三番組長、剣術師範。妻みどりの「藤田家の歴史」に記録があります。会津には、恩義があり14人が残ったとされています。齋藤一は「落城せんとするを見て、志を捨て去る、誠義にあらず」と語ったと谷口四郎兵衛の日記にあります。西南戦争では従軍して戦っています。その後、警視局や東京高等師範学校、女子高等師範学校に勤務し、東京都本郷真砂町で死去しています。72歳。酒豪であり、胃潰瘍で亡くなったとされています。最後の姿は、正座して臨終したとされています。

新選組が、若松滞在時代に宿としていたのは、会津若松市七日町の清水屋旅館跡・現在の大東銀行会津支店の場所になります。清水屋は木造の三階建てで藤田といひます。子孫は東京に住んでいます。齋藤一は、山口次郎、齋藤一、最後には明治時代に松平容保から藤田五郎を賜り名乗りました。墓は、会津若松市七日町の阿弥陀寺の東軍墓地南にあります。

文責 石田明夫



新選組の土方歳三や吉田松陰らが滞在した清水屋旅館跡。



御三階は、鶴ヶ城本丸内にあった建物。外見三階、内部は四階で、床は鶯張りです。二階かと三階に上る階段は取り込み式です。四階は殿様が本丸内を見渡す場所となりました。正面の玄関は、本丸内にあった大書院の玄関部分です。未指定。



齋藤一の墓は阿弥陀寺の藤田家墓地にあります。